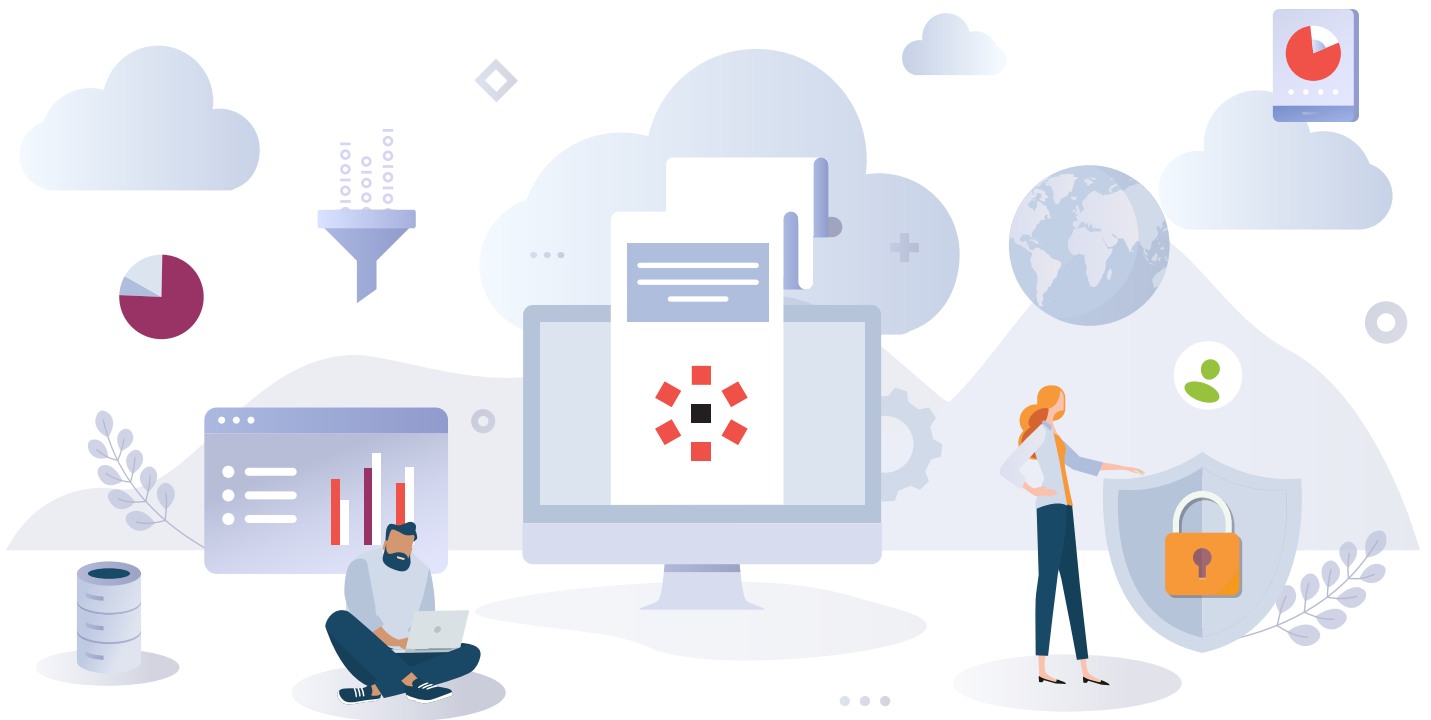


Denodoグローバル クラウド調査2020





はじめに

クラウドコンピューティング技術は、かつてない速さで成長を続けています。アプリケーションの移植性が高まり、ワークロードをリアルタイムで処理する計算サイクルが実現しています。また、データ統合プラットフォームによって接続が簡素化され、プラットフォーム間の境界が解消されることによって、ハイブリッドマルチクラウドアーキテクチャが事実上の業界標準になりつつあります。2019年にDenodoは2回目のクラウドに関する調査結果を発表しましたが、今年も同様にDenodoグローバルクラウド調査2020を実施しました。

この調査の結果は、ハイブリッドマルチクラウドテクノロジーを導入しやすくするワークロードの自動化に関するいくつかの独自機能を明らかにしました。ワークロードが複数のクラウドに広がるにつれて、クラウドプロバイダー自体が競合他社の領域まで機能を拡張するのが当たり前になっています。これは、Google Anthos、Amazon Outposts、Azure Stackなどのテクノロジーの進歩から明らかです。ハイブリッドクラウド構成の利点には、支出とスキルを多様化できること、レジリエンスを構築できること、および各ベンダーの固有の強みに応じて機能と能力を選択できること、そしてこれらすべてをベンダーロックインの罠にはまることなく実現できることが含まれます。

また、組織がコンテナオーケストレーションをファブリックとして利用して、アプリケーションをさまざまなクラウドインフラストラクチャにわたって拡大できるようにすることで、マルチクラウドの約束を果たしているという傾向も見られます。企業は、Red Hat OpenShiftやDockerで提供されている、またはGoogle Kubernetes Engine (GKE)、Microsoft AKS (Azure Kubernetes Service)、AWS EKS (Elastic Kubernetes Service) などのネイティブプロバイダーが提供する、Kubernetesソリューションが、その固有の業務ニーズおよび機能に最も適していることに気が始めています。

現在はあらゆるサービスとしてのソフトウェア (Software-as-a-Service)、IT Ops、アナリティクス、およびBI製品に、必要かどうかに関係なくさまざまな方法およびさまざまなレベルで機械学習が導入されており、インテリジェンスの導入は標準になりつつあります。

各種の調査結果によると、クラウド関連の支出が増え続けること、そしてクラウドマーケットプレイスを支えるデータの管理と統合の手法のスマート化が進むことが予想されています。

本書では、Denodoグローバルクラウド調査2020のすべての質問について1つずつ結果を確認していきます。



主な結論

クラウド技術は、これまで同様、今日のワークロードを支える基本的な柱の1つです。組織は、コンプライアンスとセキュリティ上の懸念は高まっているものの、これまで以上の自信を持ってクラウドソリューションを検討しています。Denodoグローバルクラウド調査2020の結果から、以下のような重要な洞察が得られました。

ハイブリッドマルチクラウドアーキテクチャは、調査対象のグループが検討している展開の50%以上を占めており、最も多く使われている展開形式です。ただし、プライベートクラウドアーキテクチャが近い将来に姿を消すことはありません。AWS Outposts、Azure Arc、Googleなどのテクノロジーに対する支持は、前年と変わりありません。

クラウドジャーニーに乗り出したユーザーが昨年と比べて10%増加しており、クラウド成熟度は上昇中です。また、調査対象の50%が何らかの意味のあるクラウドワークロードを処理しており、クラウド導入の信頼性は高まっています。

今回も、最上位にランクされたのはセキュリティとガバナンスに関する課題であり、回答者の70%近くが選択しています。それに続くのがマルチクラウドのスキルに関する懸念であり、2番目に多い課題として浮上しています。

3年目のDenodoグローバルクラウド調査で初めて、Microsoft Azureが最も多く選ばれたパブリッククラウドになりました。現在、Microsoft AzureとAWSで市場シェアの3分の2以上を占めています。

クラウドマーケットプレイスは、ユーティリティブライシングとセルフサービス型オプションだけでなく、プライベートオファーやエンタープライズ契約など、多様な調達と取引の選択肢のおかげで人気上昇中です。

Kubernetesなどのツールを使用した自動化およびコストの簡素化に対する組織のニーズが高まっており、DevOpsとコンテナリゼーションがクラウドのアーキテクチャと計画の重要な要素になっています。

クラウド内でのデータの管理と統合は、リアルタイムインテリジェンスを提供するために不可欠です。調査対象の約50%は、データ可視化が、最新のアーキテクチャ設計およびクラウド移行戦略の中核となると考えています。

傾向、質問、および結果

1	クラウド導入	5
2	クラウドの課題と展開戦略	7
3	クラウドプロバイダー/プラットフォームおよびクラウドへの移行	10
4	AWS、Azure、およびGCPにわたるクラウドサービス/使用事例	13
5	クラウドマーケットプレイスとクラウドプログラム	15
6	クラウド内でのデータ管理	17

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

クラウドデ
ータ管理

1. クラウド導入

クラウド導入は、クラウド成熟度およびクラウドでワークロードを実行するための準備状況を示す基本的な指標です。回答者の75%近くがクラウドで何らかのワークロードを実行しており、2019年の調査から10%以上増加しています。同時に、非常に多くの回答者が依然としてクラウド導入に踏み切るために様子見をしています。

表1

貴社のクラウドの導入状況をどのように評価しますか。

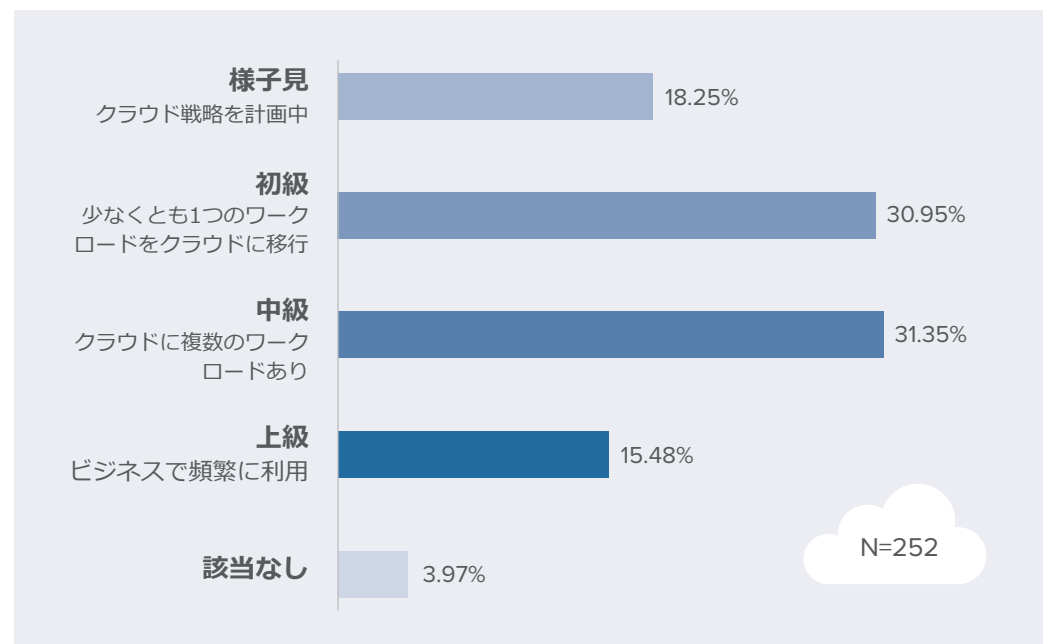
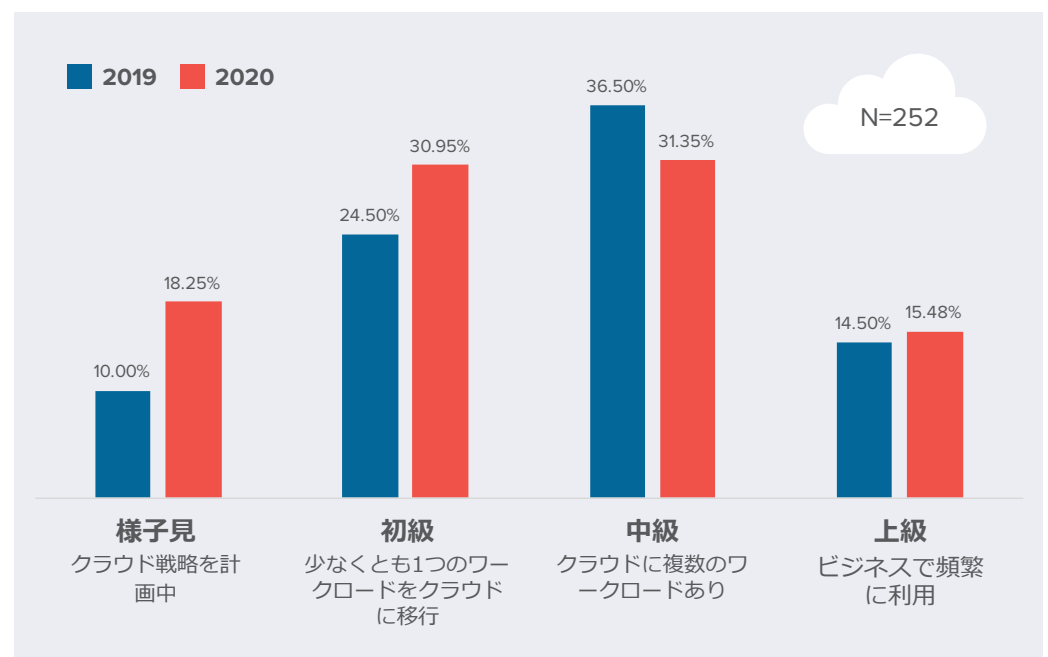


表2

2019年と2020年のクラウド導入の比較



1
クラウド
導入

2
クラウドの課
題/展開

3
クラウドプロ
バイダー/移行

4
クラウド
使用事例

5
クラウドマーケ
ットプレイス

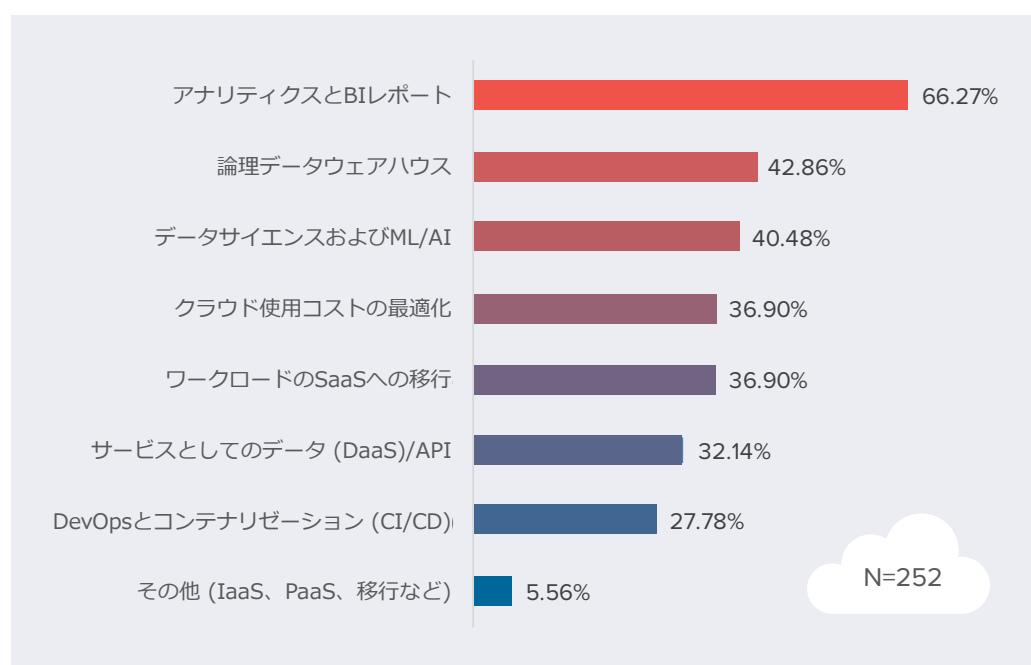
6
クラウドデ
ータ管理

過去1年でクラウド導入が大幅に進んで、様子見、初級、および中級導入者の全体で10%以上の伸びを示しています。

回答者は、クラウド技術の導入はスイッチを切り替えるような簡単なものではなく、始める前により慎重な分析と評価が必要になる可能性があることに気付いていました。各クラウドプラットフォームのコストとメリットに沿ってさまざまな選択肢を検討するだけでなく、関係者が皆で自社のクラウドジャーニーに参加してサポートするという心構えを持っているかどうかを確認しなければなりません。

表3
貴社の主なクラウド
イニシアチブは何で
すか。

66%
の主なクラウド
イニシアチブは
アナリティクス
とBIレポート



クラウドへの移行により、コストの節約、柔軟性の向上、競争力を保つためのクラウドワークフローの導入などに後押しされて、ビジネス全体を簡素化するさまざまなソリューションが実現しています。企業が成長して収集するデータ量が増加すると、データ管理は主に、SaaS技術および各事業部門の業務効率向上に役立つマーケティング自動化ツールや顧客関係管理 (CRM) システムなどの拡張機能によって処理されます。

アナリティクスとBIは主なクラウドイニシアチブの中で群を抜いており、実に回答者の66%がビッグデータアナリティクスプロジェクトを推進しています。これに続くのが、データサイエンスおよびクラウドでの論理データウェアハウジングです。回答者の40%近くは、クラウドへの展開の価値を立証するには、クラウドのコストの最適化が必須であると考えています。コストの最適化には、インスタンスの規模の適正化や使わないリソースの整理が含まれます。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

クラウドデ
ータ管理

2. クラウドの課題と展開戦略

クラウドプラットフォームにはそれぞれに固有の利点があります。適切なクラウド展開戦略は、それらの関連のない利点を、統合されたプラットフォームに取り込むことができます。データとアプリを適切なクラウド構成に配置することによって、システムの応答性の観点だけでなく、ROIの観点でも違いを生み出すことができます。

企業がクラウド技術を完全導入するのを妨げる多くの課題があります。セキュリティ、制御、およびパフォーマンスに関する懸念から、複数のクラウドを管理することに伴うフラストレーションやベンダーロックインまで、企業が慎重になる理由は尽きることがなく、どんな場合でも適切に配慮することは良いステップです。

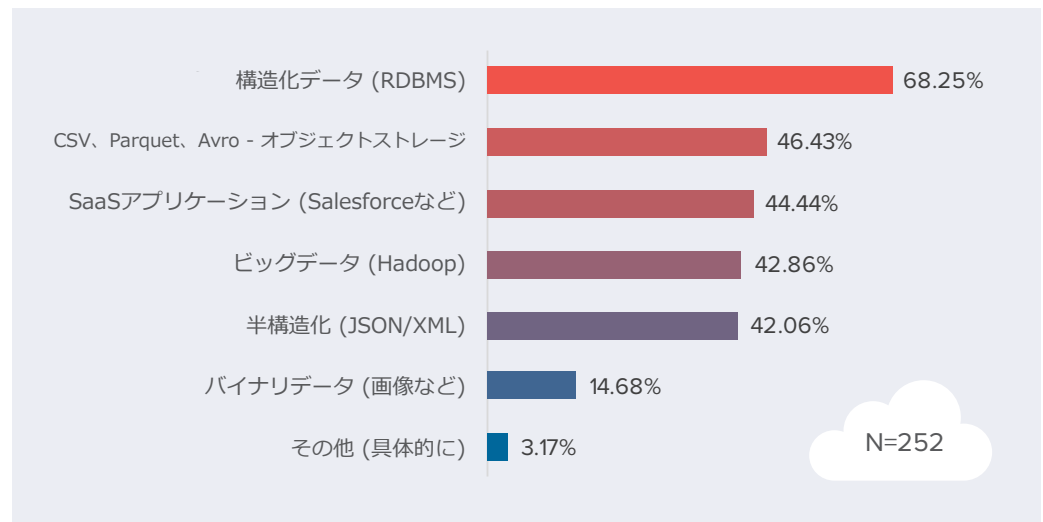
データがまったく異なるソースや地域に分散している状況では、データの移動と複製を最低限にとどめて時間とコストを節約することがさらに重要になります。

表4

クラウドでよく使う
データ形式は何です
か。

68%

がクラウドで構
造化データ形式
を使用



クラウドでアプリケーションを使用する場合、さまざまなデータ形式から選択できます。それぞれに固有の強みと弱みがあるので、トレードオフを理解することが、目標に適した形式を選択するのに役立ちます。

利用するデータの3分の2は依然として構造化形式（68%）ですが、まだ完全には利用されていない大量の非構造化データが存在しています。クラウドオブジェクトストレージ（47%）は、SaaSデータ（44%）とともに、計算のしやすさとパフォーマンスの最適化を最大化するために高い頻度で使用されています。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

クラウドデ
ータ管理

表5

クラウドにおける最も難しい課題はどれだと思いますか。

65%

はクラウドにおける最大の課題はセキュリティとガバナンスであると認識

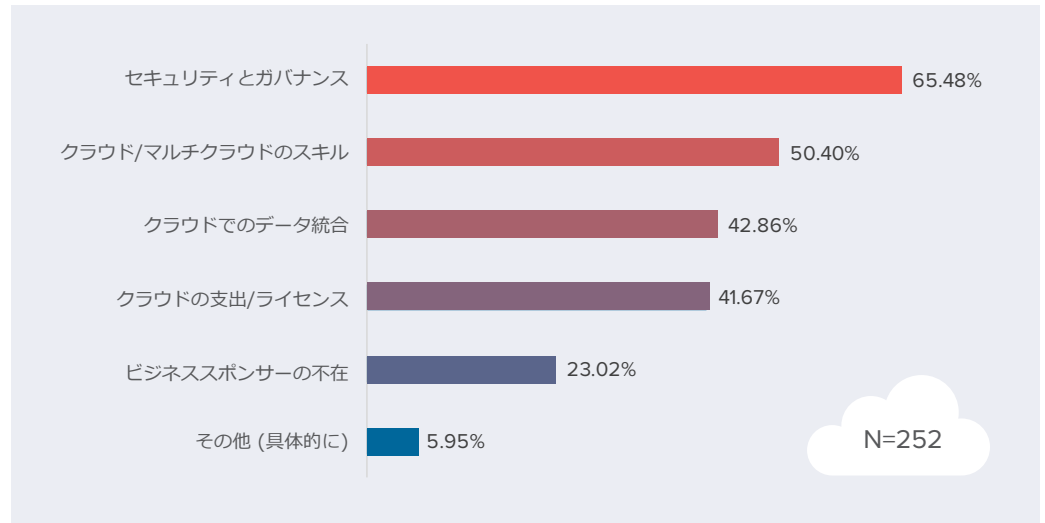
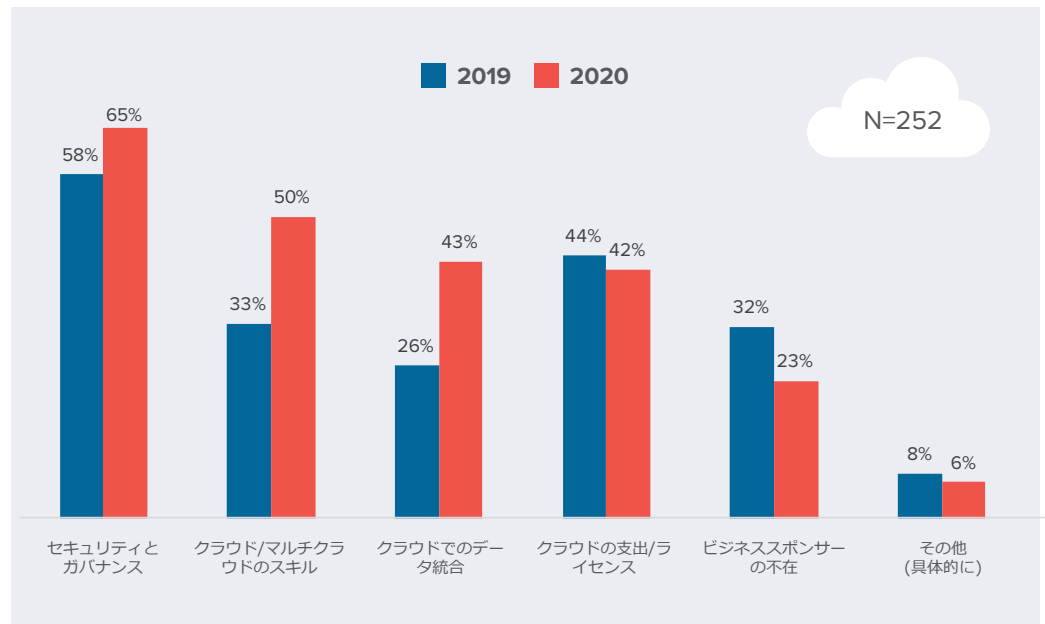


表6

2020年と2019年のクラウドにおける最大の課題の比較



さまざまな調査で明らかのように、組織は依然としてクラウドコンピューティングに関する懸念を抱いています。ITリーダーがクラウドを導入するのはその利点を活用するためですが、クラウドコンピューティングの重大な課題に直面しているという状況は変わっておらず、今回もセキュリティとガバナンスが最上位にランクされています。この状況は、特にクラウドを長期間使っている企業ほど、時間の経過とともに解消されると思われる。

クラウド固有のスキル (50%) とデータ統合 (42%) は、クラウドプラットフォームの計画と導入に関して対処する必要がある上位3つの課題として、セキュリティ (65%) の後に続いています。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

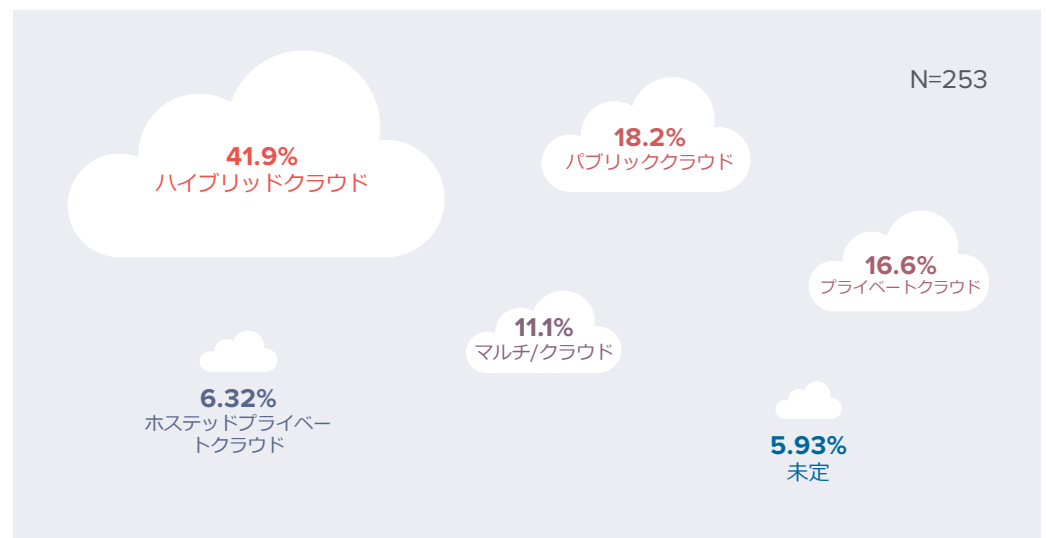
クラウドデ
ータ管理

ユーザーがクラウドがもたらす多額の節約の可能性について検討し始めるとき、クラウド支出 (41%) も同じように重要な問題です。クラウドベンダーは、支出を監視および管理するための新しいツールをユーザーに提供しています。たとえば、AWSは、計算リソースの事前購入について大幅に拡張/改良した機能をひそかにリリースしています。また、オンデマンドのEC2リザーブドインスタンスに対する節約プランとして、1年間または3年間にわたる特定量の計算能力 (\$/時間で測定) の使用契約と引き換えに、大幅な割引を提供しています。

2020年の調査では、クラウドのデータ統合の課題はほぼ倍増 (42%) しており、ユーザーはマルチクラウド環境におけるクラウド統合の重要性に気付きつつあります。

表7

どんなクラウド展開戦略を検討していますか。



42%

はハイブリッドクラウドモデルを活用

ハイブリッドクラウド構成が全クラウド展開の中心であり、パブリッククラウドとプライベートクラウドがその後に続いています。マルチクラウドアーキテクチャは、確かに話題にはなっていますが、初期コスト、維持コスト、SLA/プロバイダースキル、地域的な展開能力、構成の柔軟性など、さまざまな要因に基づいて入念に評価する必要があります。

2019年の展開戦略の上位3つはハイブリッドクラウド、パブリッククラウド、およびプライベートクラウドでしたが、上記の数字はそれと一致しています。これは、マルチクラウドアーキテクチャが重要でないことを意味するものではありません。なぜなら、ユーザーはワークロードを混合して、さまざまなクラウドプロバイダーの機能を利用しているからです。

さらに、クラウドのアプリケーション間のデータのやりとりではセキュリティとガバナンスが重要な役割を果たしており、成果を上げるにはクラウドのデータ管理ツールを正しく選択することがますます不可欠になっています。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

クラウドデ
ータ管理

3. クラウドプロバイダー/プラットフォームおよびクラウドへの移行

クラウドサービスがコンピューティングに革命を起こしたおかげで、企業は、仮想化ITインフラストラクチャを開発し、ユーザーのオペレーティングシステムに関係なくクラウドを通じてソフトウェアを配信できるようになりました。CIOには途方に暮れるほど多くのプロバイダーとサービスの選択肢があり、正しいパブリッククラウドプロバイダーを選択することも重要です。

表8

主なクラウドプロバイダーだと考えているのはどこですか。

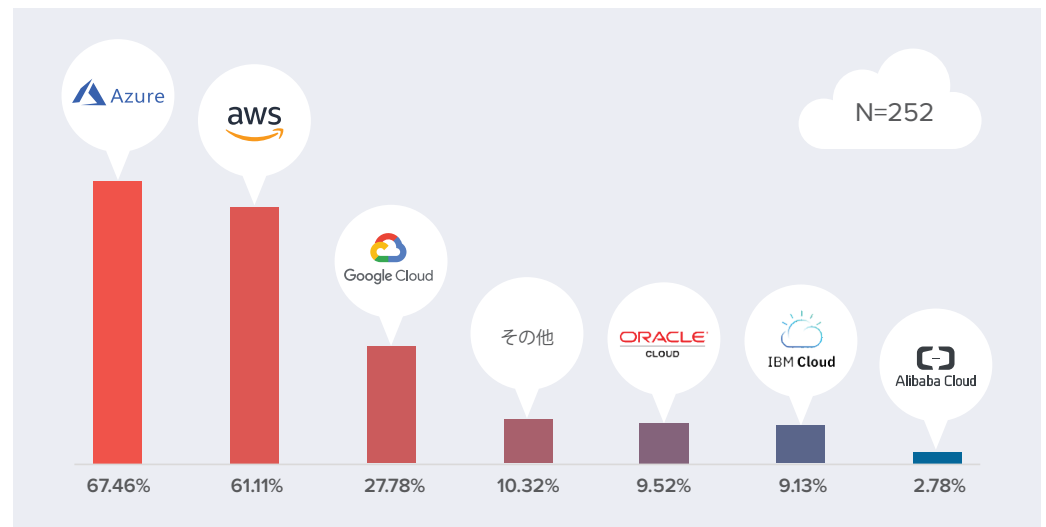
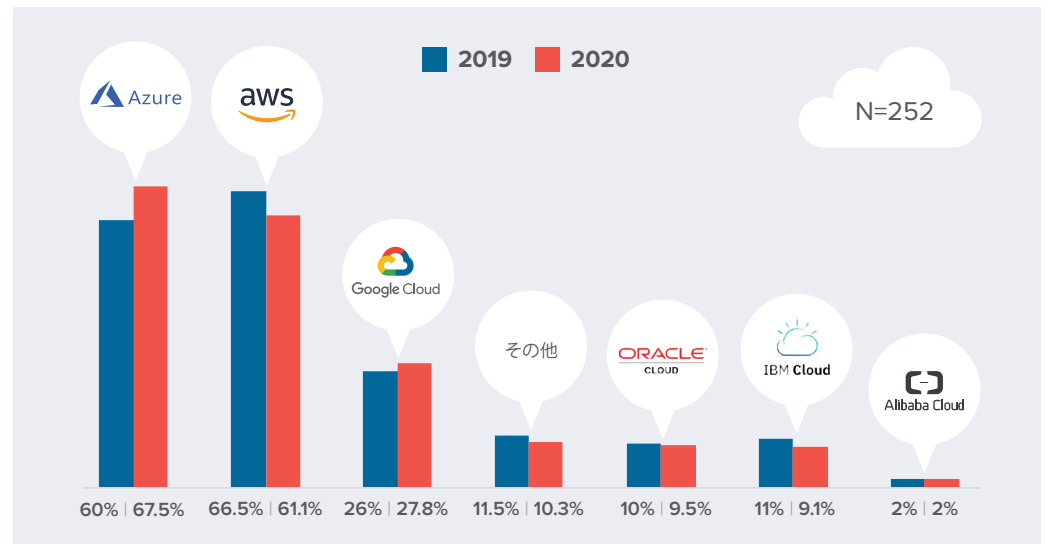


表9

2020年と2019年の上位のクラウドプロバイダーの比較



67%

Microsoft Azure
が新しいトップ
プロバイダーと
して浮上

2020年の上位のクラウドプロバイダーは、大幅な成長を遂げました。その結果、Microsoft Azure (67%) が新しいトッププロバイダーとして浮上しました。ただし、AWS (61%) が僅差で続いています。両者はいわゆる激しい競争状態にあり、特定のサービスの必要性に応じてどちらかを選択できます。Azure Cloudはさまざまな市場に進出していますが、Google、IBM、Oracleなどの他のクラウドプロバイダーはそれに気付いています。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

クラウドデ
ータ管理

Google、IBM、およびOracleは、やることが山積みです。Alibabaは、APAC地域では好まれているプラットフォームかもしれませんが、主役になるのに十分な票を集めていません。

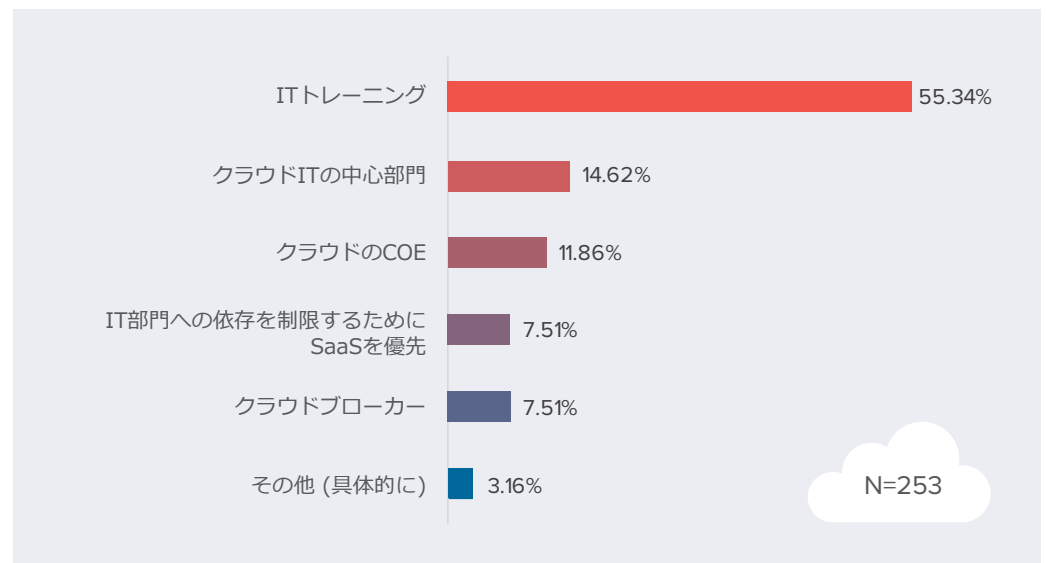
Oracle CloudとMicrosoft Azureの相互運用性は、両者を組み合わせて業務アプリケーションとミッションクリティカルなアプリケーションの両方をサポートすることを可能にしています。顧客は、シームレスな相互運用性によってOracle Cloud (Oracle Autonomous Databaseを含む) とMicrosoft Azureをそれぞれ最大限に活用して、クラウドへの移行または新しいアプリケーションの構築を実現できるようになりました。

クラウドへの移行は、データ、アプリケーション、および関連するビジネスコンポーネントをクラウドに移動するプロセスです。しかし、採用する戦略の種類によっては、移行によって問題が起きる可能性があります。

データ統合は、クラウドへの移行において重要な役割を果たすので、この次にしてはいけません。クラウドへの移行の一般的な目標または利点は、コスト、パフォーマンス、セキュリティなどの要因に基づいて、可能な限り最も効果的なIT環境でアプリケーションとデータをホストすることです。

表10

クラウドの戦略/変革
においてIT部門が果た
す役割は何ですか。



誇大広告をうのみにした人は、すでにすべての企業がアプリケーションのクラウドへの移行を済ませたのではないかと、オンプレミスまたは同一拠点に配置されているデータセンターを利用して自分の組織は時代に取り残されているのではないかと感じる人もいます。多くのクラウドコンピューティング技術が主流として導入されるまでには、あと数年かかります。企業は、移行コストだけでなく、ITチームはこの新しい世界で活動する準備ができていないかもしれないという理由で、ワークロードの大部分をクラウドに移行することを躊躇しています。Infrastructure as Code、CI/CD、サーバーレス、およびコンテナに関する新たな進歩により、セキュリティとコンプライアンスに対する懸念が、IT運用チームを長期にわたって流動的な状況に置く可能性があり、稼働時間と信頼性が脅かされます。もちろん、移行自体がダウンタイムの原因になる可能性もあります。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

クラウドデ
ータ管理

表11

クラウドへの移行パターンとして選択したのはどれですか。

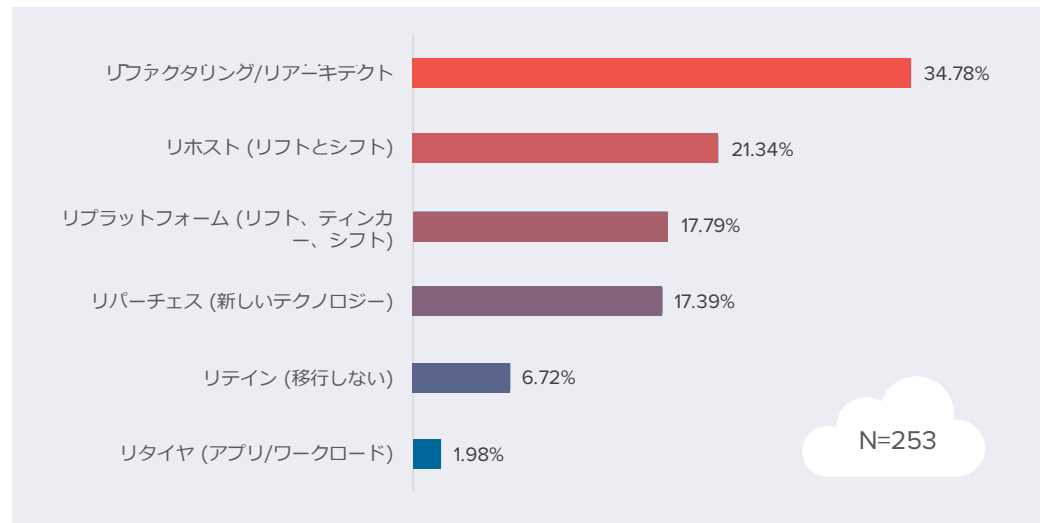
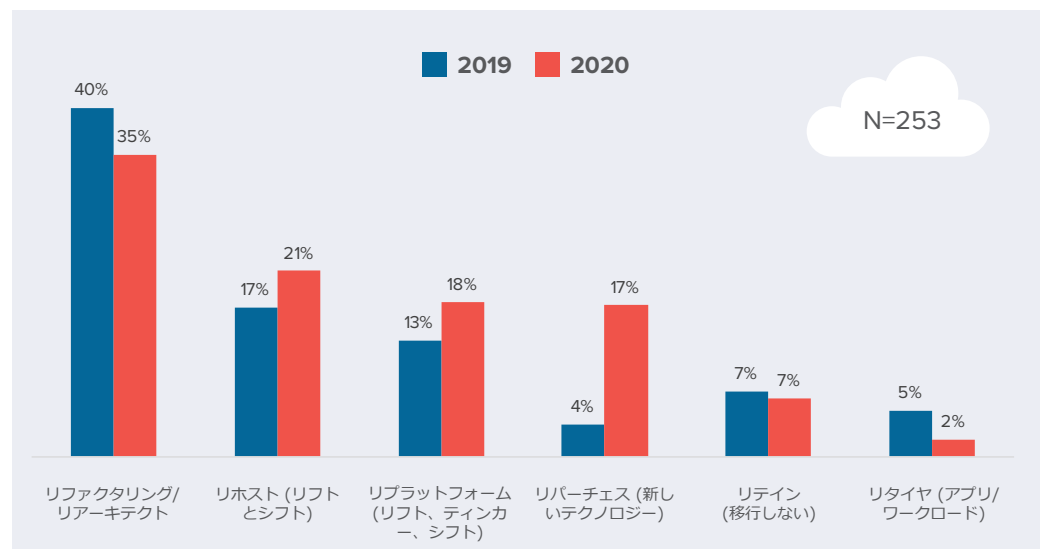


表12

2020年と2019年のクラウドへの移行パターンの比較。



35%

がアプリケーションのリアーキテクトを検討

新しいクラウドインフラストラクチャへの移行は、期待が大きいと同時にやりがいもあります。クラウドへの移行の実際のプロセスは、面倒で手に負えない場合もありますが、いつもそうなるわけではありません。移行に適した計画を立てて、慎重に最善のアプローチを選択する必要があるだけです。最も一般的なアプローチは、リアーキテクト、リホスト、およびリプラットフォームです。

上の図からわかるように、回答者の3分の1 (35%) は、データインフラストラクチャ全体のモダナイゼーションを伴うアプリケーションのリアーキテクトを検討しています。また、回答者の21%はリホストを選択しています。これはおそらく、中小企業が簡素化された方法で移行を速めようとしているからです。一方、回答者の18%は、アプリケーションを大きく変更しないで新しい計算能力とストレージ能力を利用するために、リプラットフォームを実行しています。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

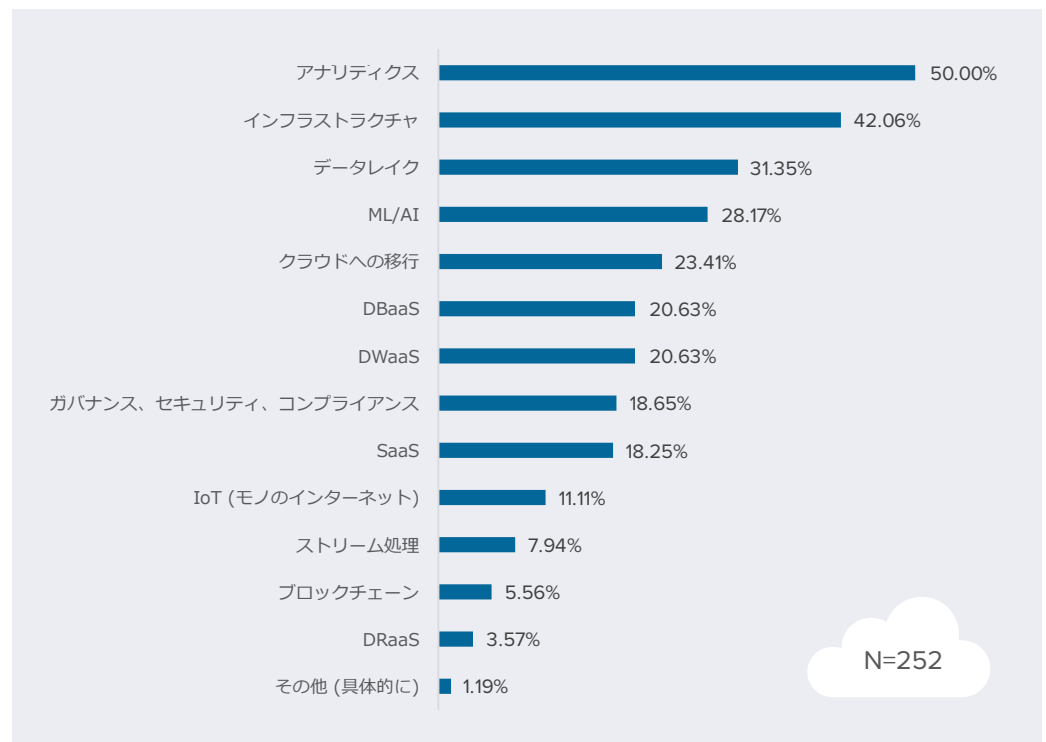
クラウドデ
ータ管理

4. AWS、Azure、およびGCPにわたるクラウドサービス/使用事例

クラウド技術の出現により、拡張性が高いシステムを構築するのは非常に簡単になりましたが、最適な選択をするのは難しい場合があります。そのためには、アーキテクチャ空間での長年にわたるしっかりした経験が必要かもしれません。クラウドサービスは、クラウド内で使用事例を円滑に進める機能を幅広く提供します。また、全体アーキテクチャが重要な役割を果たしますが、これはSLAと相互運用性を定義する可能性がある項目の一部である、地理的な場所、セキュリティ、ネットワークインフラストラクチャ、およびストレージに直接関連があります。API駆動型サービスとIoTデータ管理を中心とする高度な使用事例は、マルチロケーションアーキテクチャを利用しますが、セキュリティとガバナンスの影響も受けます。

表13

貴社のクラウドサービスはどれですか。上位3つを教えてください。。



クラウドプラットフォームにはそれぞれ固有の強みがありますが、上位の使用事例は全体的に同じように見えます。回答者の50%以上が、コストを削減すると同時に複数のワークロードにオンザフライで計算/ストレージをバーストできるように、クラウドを利用して、高度なアナリティクス、機械学習/AI、データレイク、およびサービスとしてのインフラストラクチャ (IaaS) を実行しています。回答者の約20%は、バックアップと災害復旧を目的としてクラウド技術を利用していますが、これにはコントロールされたペースでの移行が含まれます。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

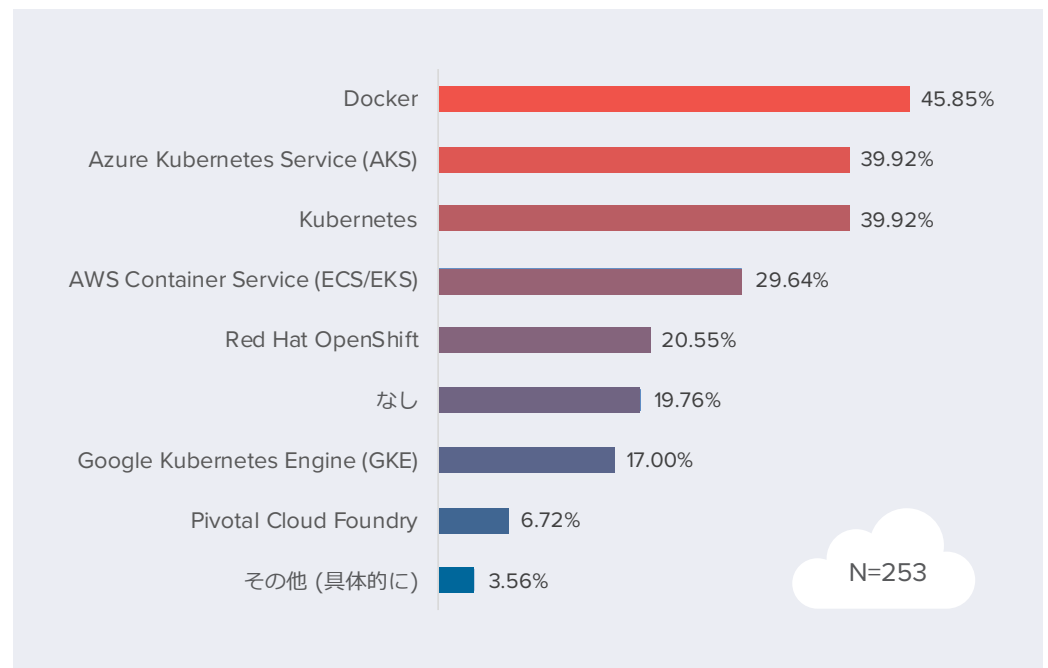
6

クラウドデ
ータ管理

DevOpsは、開発チームと運用チームが独自に活動するのではなく共同で作業できるように、開発と運用を一体化して進めるという企業文化における実践です。コンテナリゼーションは、再現性を実現し、展開を自動化できるという点でDevOpsと親和性が高い稼働手法です。あらゆる組織は、アプリケーションとサービスの手間のかからない開発とシームレスな配信を実現するために、セキュリティプロセスを強化および統合する必要があります。

表14

貴社のクラウドアーキテクチャでは、どのコンテナ技術が利用/検討されていますか。



顧客は、クラウド内でコンテナを用いることでメリットを得られます。ポータビリティとスケーリングが向上し、全体的な展開プロセスが簡素化され、自動化とシンプルさを強化できるからです。

46%

がコンテナ技術としてDockerを使用

上の図からわかるように、コンテナの導入と人気には大きな差があります。回答者の3分の2以上が何らかのコンテナ実装を利用しており、最上位にランクされているDockerは50%近くが利用しています。Kubernetesは、あらゆる主要クラウドプロバイダーの着実なサポートが示すように、勢いを増しています。

クラウドの導入が加速していることの証拠として、コンテナの使用は前年比で50%増えており、最新アーキテクチャの重要な要素になっています。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

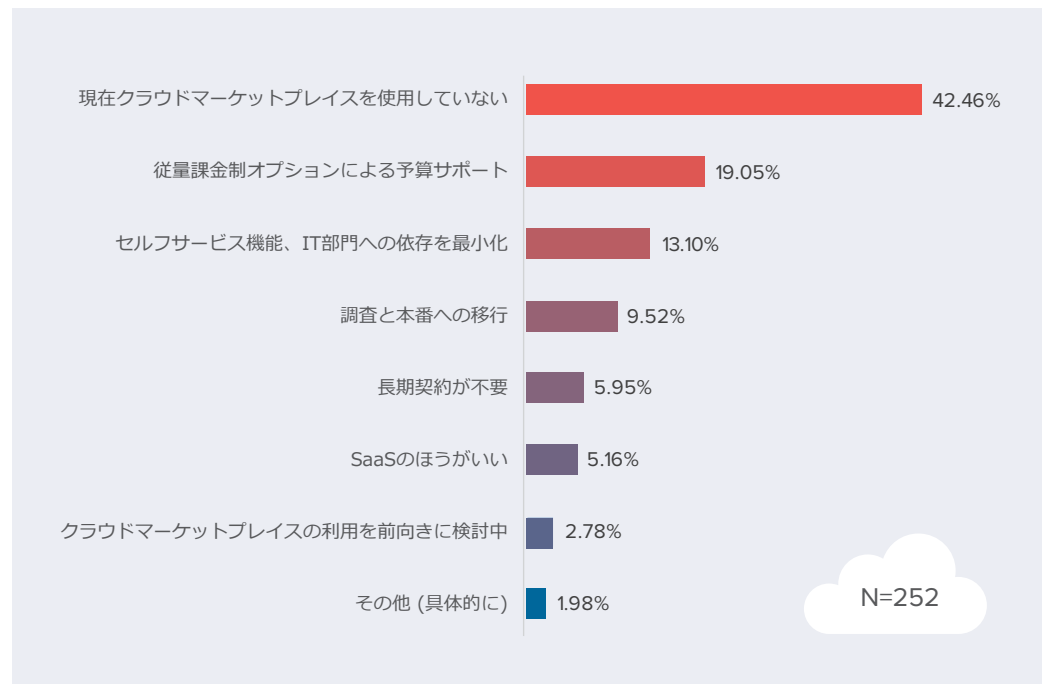
クラウドデ
ータ管理

5. クラウドマーケットプレイスとクラウドプログラム

あらゆる大手テクノロジー企業、流通業者、および大規模SaaSプロバイダーがクラウドマーケットプレイスに参入しているため、クラウドマーケットプレイスは驚異的なペースで成長しています。Forrester社は、パブリッククラウドマーケットプレイスは2020年までに1,910億ドルに達すると予測しています。クラウドマーケットプレイスでは、ユーザーは事前に資金を投入しなくても必要なすべてのツールを利用できるので、ユーティリティプライシング、厳しい予算、およびバランスの取れたリスクを最大限に活用できます。次に、クラウドマーケットプレイスで利用可能ないくつかの主要クラウドプログラムを含む、上位の動機付け要因について説明します。

表15

クラウドマーケットプレイスを利用する動機付け要因はどれですか。上位3つを教えてください。



回答者の50%以上が何らかの理由でクラウドマーケットプレイスを利用しており、最も多いのはユーティリティプライシング (従量課金制) です。残りの50%はクラウドマーケットプレイスの利用に積極的ではありませんが、検討したことはあり、近い将来使用する可能性があります。長期契約が不要であること (10%) やセルフサービス性 (14%) も、クラウドマーケットプレイスの利用者を動機付けています。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

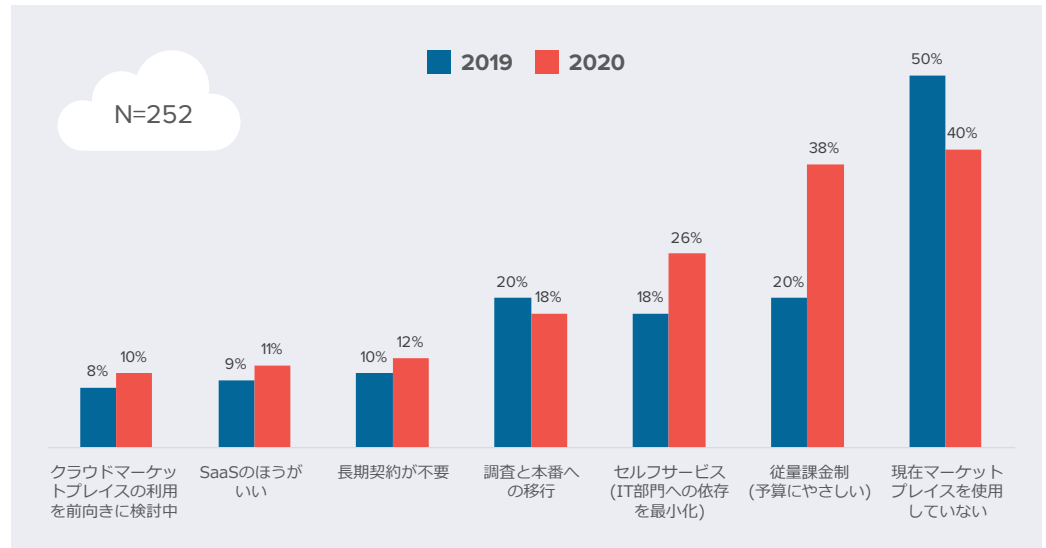
5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

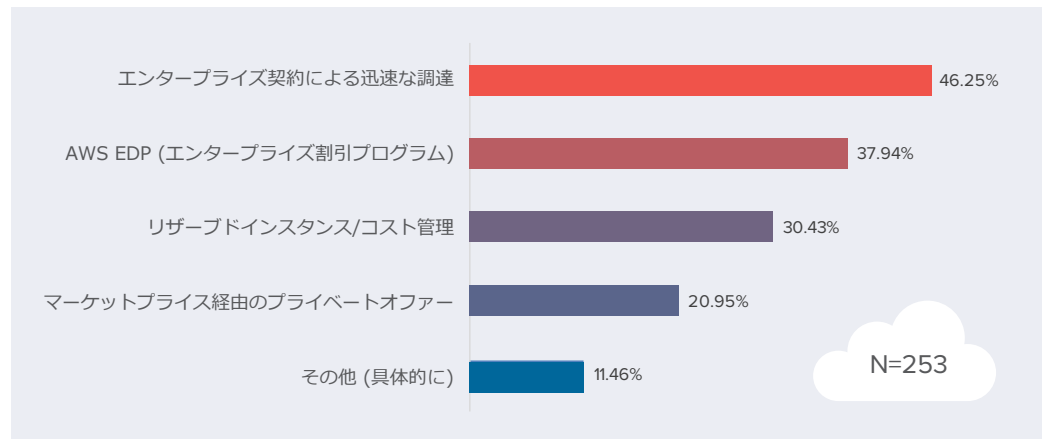
クラウドデ
ータ管理

表16

2020年と2019年のマ
ーケットプレイスの
利用と利点の比較

いくつかの数字を2019年と比較すると、クラウドマーケットプレイスは明らかに急成長しています。IT予算の管理に関して、クラウドマーケットプレイスは非常に使いやすく、値段交渉不要の取引を提供します。

表17

クラウドマーケ
ットプレイスに興味
を持つきっかけは
どれですか。

クラウドマーケットプレイスが提供する取引と調達に関する幅広いプログラムと利点は、クラウドプラットフォームを選択する際の決定要因になることがよくあります。回答者の50%近くは、エンタープライズ契約や、特別割引を提供できるエンタープライズ割引プログラム (EDP) を、法的手続きや長期化する交渉の辛さを軽減する素晴らしい手段として見ています。プライベートオファー (20%) は、大企業が事前承認された予算をマーケットプレイスルートで利用することによって、より一般的になりつつあります。

要約すると、クラウドマーケットプレイスは、展開のためだけでなく、調達面でもアジャイルなプラットフォームを提供して、さまざまな予算上のニーズに柔軟に対応できるので、ビジネスのダイナミクスを変化させます。クラウドマーケットプレイスの今後の展開は、ISVがどれだけ優れたパートナーネットワークを構築してイノベーションを促進できるかに依存しています。

1

クラウド
導入

2

クラウドの課
題/展開

3

クラウドプロ
バイダー/移行

4

クラウド
使用事例

5

クラウドマーケ
ットプレイス

6

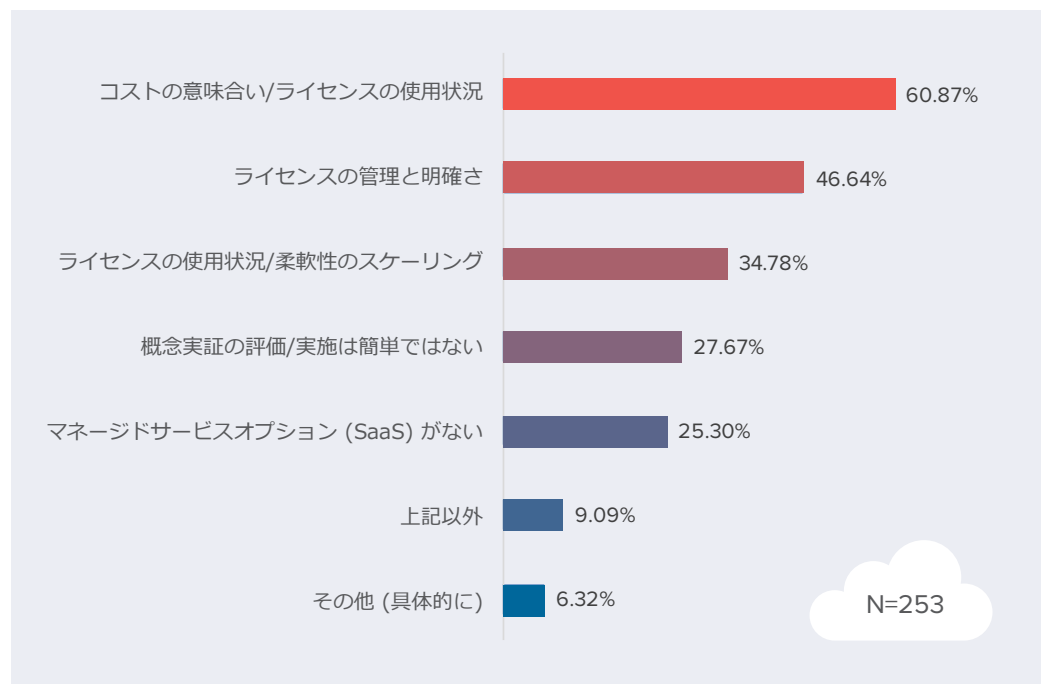
クラウドデ
ータ管理

6. クラウド内でのデータ管理

データの重心がクラウドに移行するにつれて、ハイブリッドクラウドアーキテクチャとマルチクラウドアーキテクチャがデータ管理とデータフローの基盤になります。これまでに、高度な洞察の統合と生成に関してさまざまな種類（構造化および非構造化）のデータが役割を果たすことがわかっており、したがってアジリティとイノベーション能力を強化するためにクラウドでデータを簡単に使用できるようにする必要がありますが、ビジネス価値を最大化するには簡単なアクセスと保護のバランスを取る必要があります。今回の調査では、クラウドソリューションを評価する際に、これらの主な検討事項2つを考慮しています。

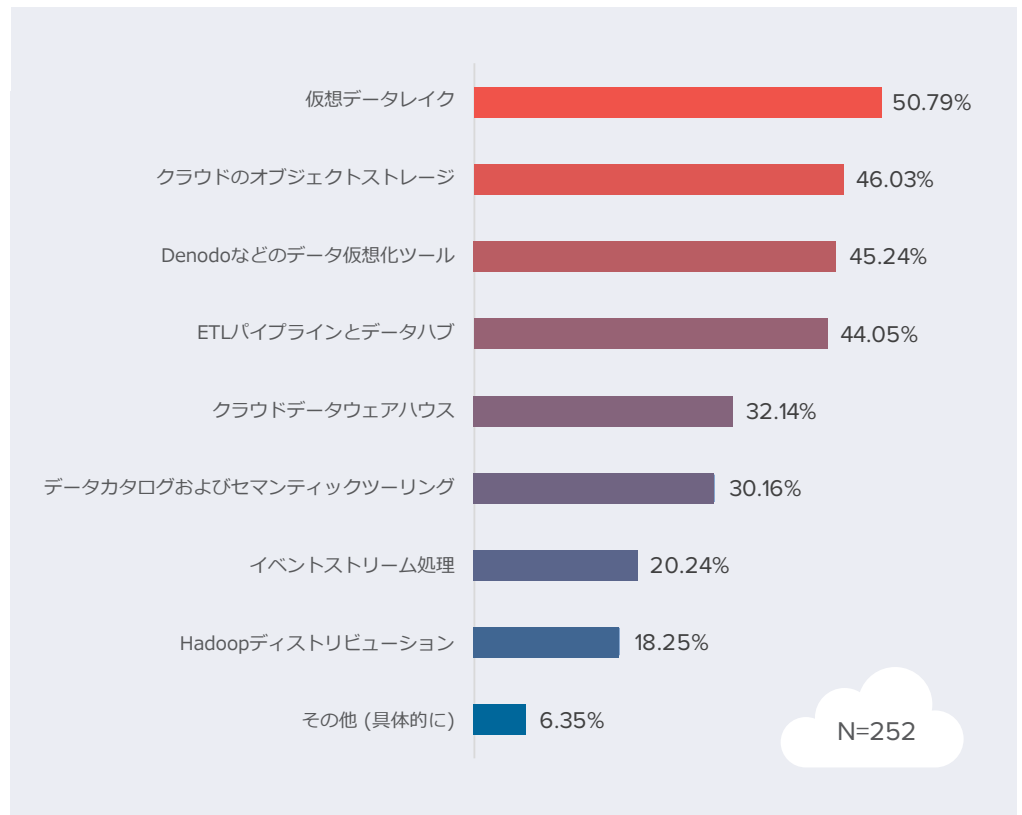
表18

クラウドベースのソリューションを評価する際の課題は何ですか。



回答者の60%以上が、クラウドのソフトウェアのコストの意味合いについて心配していますが、これはライセンスの管理機能と明確さに直接結び付いています。回答者のさらに30~40%は、POCによってクラウドソリューションの価値を簡単に評価できるかどうか、およびワークロードのスケーリングがライセンスコストに与える影響を簡単に理解できるかどうか、自信がありません。回答者の4分の1は、IT部門またはクラウド固有のスキルへの依存性が少ないマネージドサービス (SaaS) を好んでいます。

表19
クラウド内のデータ管
理/統合に関する課題
をどの方法で克服しま
したか。



クラウドソリューションを評価する際に一部の組織が直面するデータ管理上のいくつかの課題がわかったところで、これらの課題を克服する方法もあることを思い出しましょう。

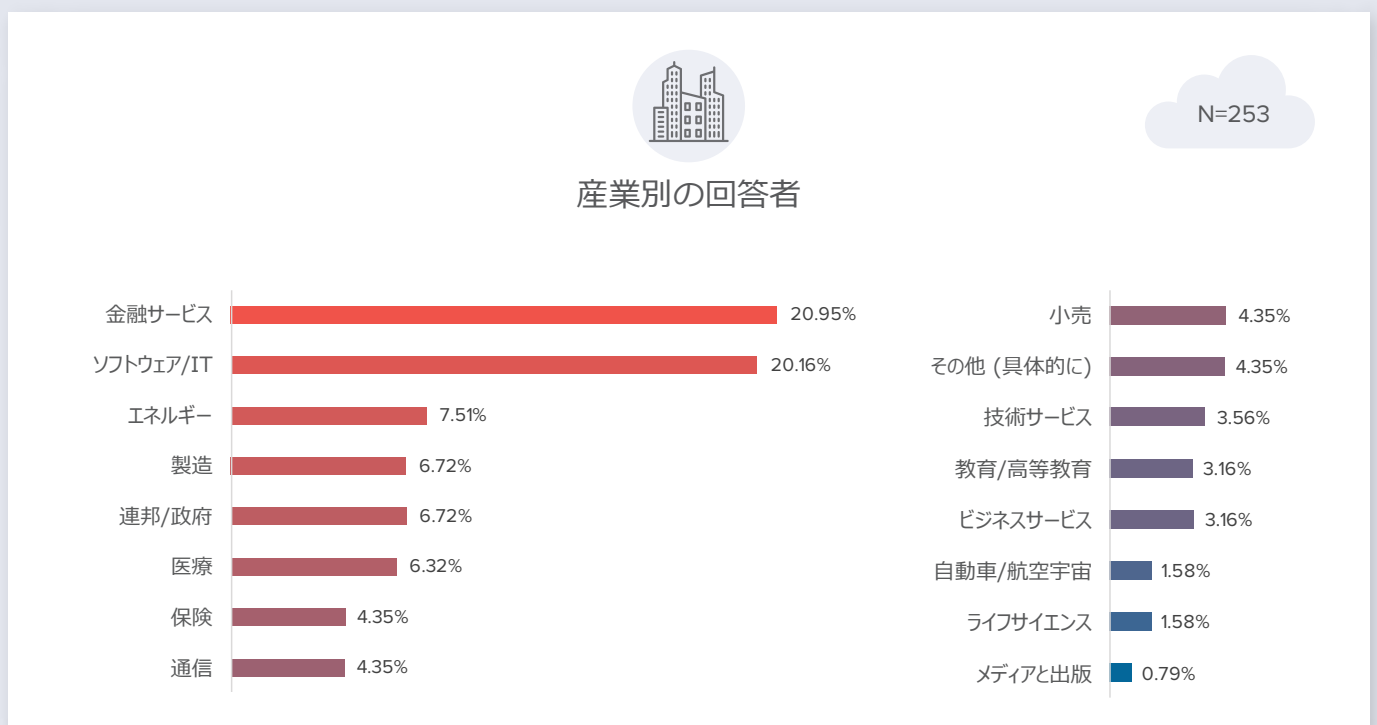
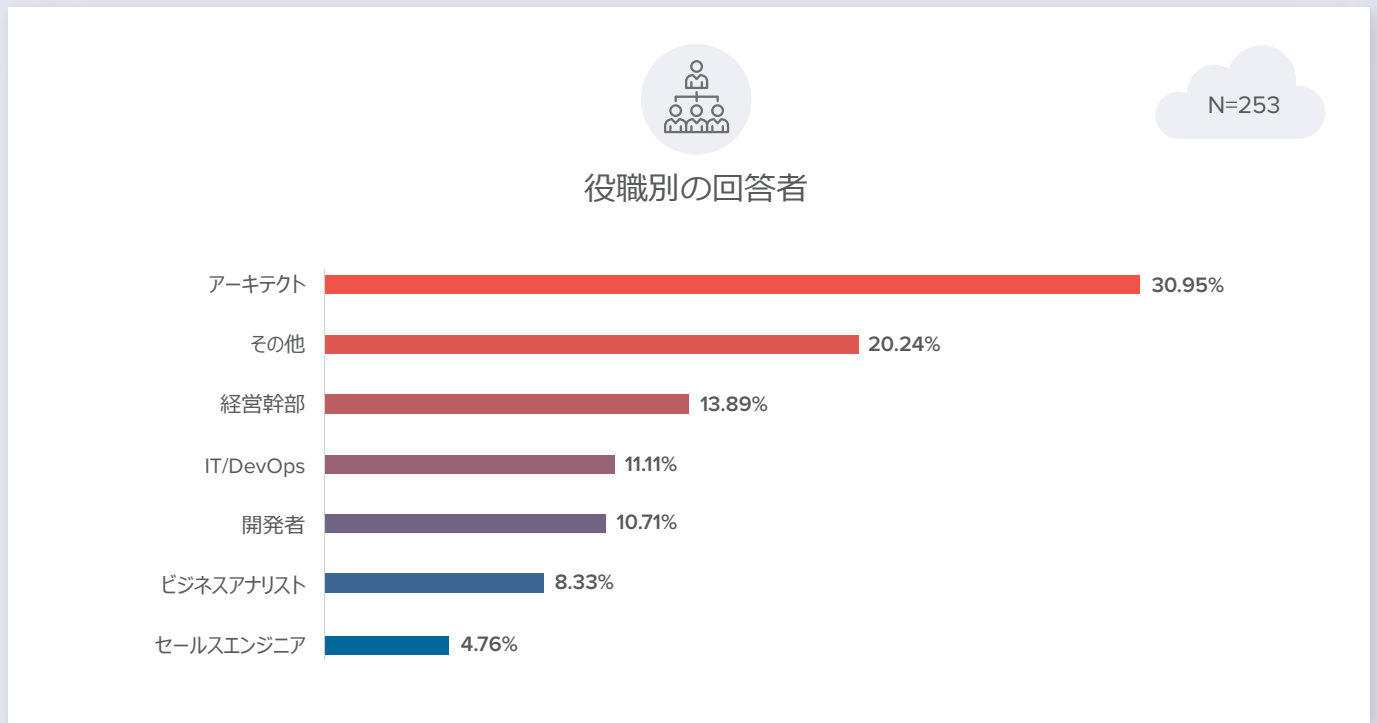
仮想データレイクは、広範囲にわたるデータの管理を向上する重要なソリューションの1つであり、回答者の50%以上が投資しています。クラウドオブジェクトストレージもデータの一元管理を実現しますが、いくつかの重要なガバナンス機能が不足しています。クラウド内のデータ統合に対してよく使われているもう1つのソリューションがデータ仮想化です。回答者の45%がこれを選択していることは、Denodoプラットフォームをはじめとするデータ仮想化ソリューションが相当広く浸透しており、魅力的なTCOとセキュリティ管理を提供していることを示しています。

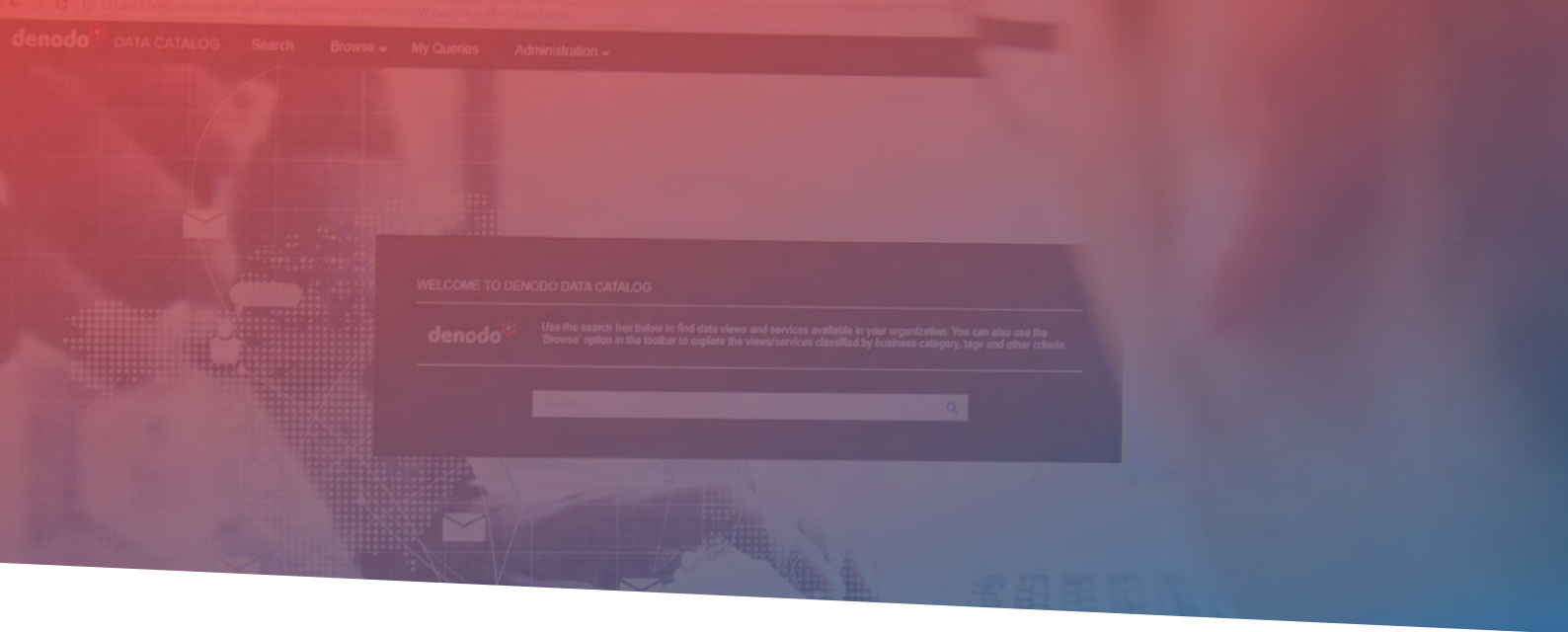
ETLやデータウェアハウジングなどの従来のアプローチも依然として使用されていますが、マルチクラウド環境でのデータ管理に関して、競合するアプローチのような多用途がありません。

方法論

この調査は、北米、ヨーロッパ・中東・アフリカ、およびアジア太平洋の3つの主要国際地域にわたる250余りの組織を対象として実施されました。さまざまなバックグラウンドと役職を持つユーザーが参加し、各自の洞察を共有しました。2020年のDenodoグローバルクラウド調査の結果は、クラウドの導入ジャーニーにおける各組織の立ち位置を明らかにしました。調査は、2020年2月にオンラインで実施されました。

人口統計情報

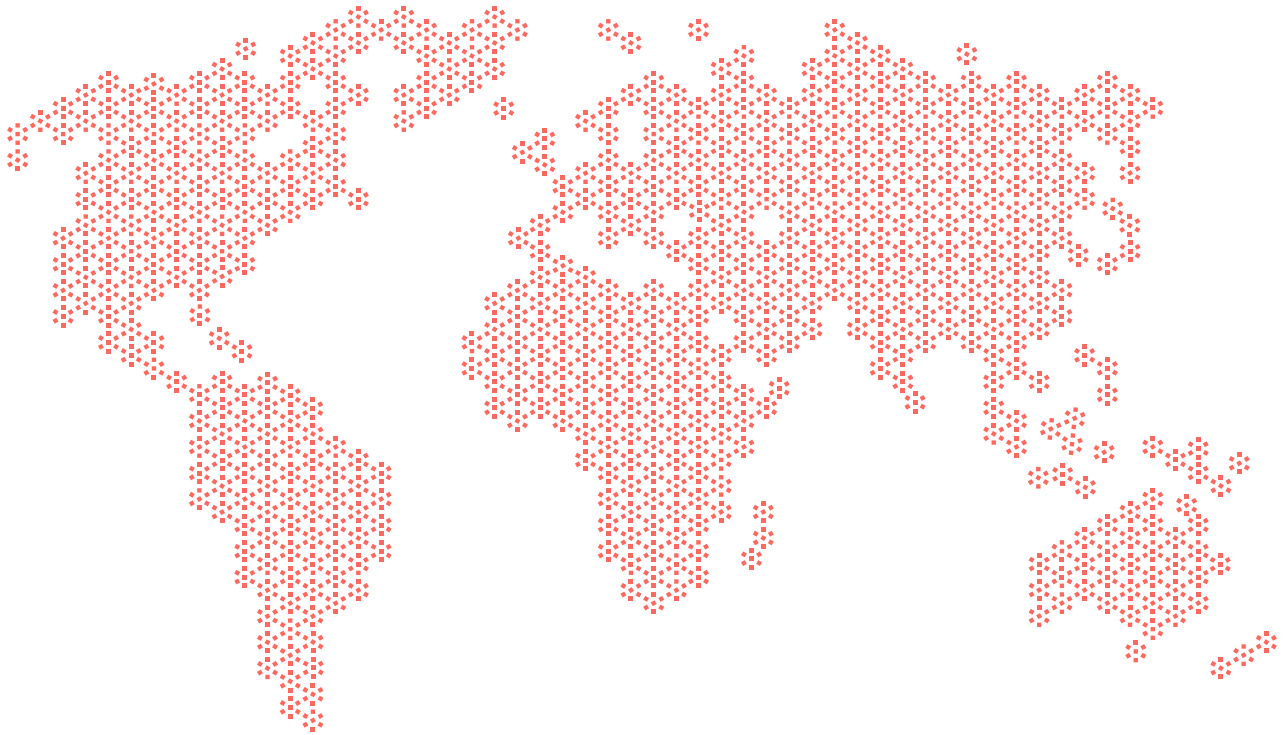




DENODOプラットフォームの概要

- Denodoプラットフォームは、組織の多様なデータソースにわたってデータを複製せずに統合したデータへのリアルタイムアクセスなど、データ仮想化のあらゆるメリットを提供します。さらに、エンタープライズ、ビッグデータ、およびクラウドソース (Amazon Web Services、Microsoft Azure、およびGoogle Cloud Platform) に存在する構造化データと非構造化データに対する最も広範なアクセスをバッチとリアルタイムの両方で提供します。そのパフォーマンスは、大量のデータを処理する組織が求めるパフォーマンスを上回っています。
- Denodoプラットフォームは、そのマルチロケーションアーキテクチャを活用して、マルチクラウド統合を円滑に進めます。ユーザーはBYOL (Bring Your Own License: ライセンス持ち込み) やクラウドマーケットプレイスを使用してハイブリッドクラウドエコシステム内でDenodoを展開できるので、組織がクラウド内のデータ仮想化機能を簡単にご利用になれます。さまざまな**テストドライブ**や**14日間無償トライアル**をクラウドで使用して、Denodoプラットフォームを体験してください。
- Denodoプラットフォームのアジャイルなアーキテクチャは、サービスとしてのデータ (DaaS) を推進するAPIの統合、仮想データレイク、データウェアハウスモダライゼーション、組み込みデータカタログ機能を用いたデータサイエンスアクセラレーションなどのさまざまな使用事例をクラウド内で実現します。
- Denodoプラットフォームは、クラウドセキュリティの中心層として機能し、すべての情報へのアクセスを1カ所から制御できるようにします。ロールベースのセキュリティの管理からLDAP/AD認証の処理に至るまで、幅広いデータソースへの接続に使用するさまざまなセキュリティプロトコル (SSL、OAuthなど) に対応する一方で、業務アプリケーション向けに (HTTPSまたはKerberosを使用して) データを安全にパブリッシュします。Denodoプラットフォームは、**GDPR**を遵守するために使用することもできます。
- 100個以上のデータソースコネクタ (構造化/非構造化データソースコネクタを含む) がさまざまな地域に分散し、BIアプリケーション、データサイエンスツール、Webサービスなどで幅広く使用されている状況で、Denodoプラットフォームのデータ仮想化技術は、ハイブリッドなクラウドエコシステムに固有の課題を軽減します。

Denodoクラウドリソースの最新情報は[こちら](#)からご覧いただけます。



denodo

Denodo は、データ仮想化市場をリードする企業として、高性能で柔軟なデータ連携、データ抽象化、リアルタイムのデータサービスをエンタープライズ企業、クラウド、ビッグデータ、非構造化データなど幅広い環境に従来の手法の半分のコストで提供しています。すべての主要な業界におけるDenodoのお客様は、事業のアジリティとROIを大幅に向上させました。

ホームページ www.denodo.com | メール info@denodo.com | コミュニティ community.denodo.com

ZEAL[®] BI EVANGELISTS

株式会社ジールは、「専門的な分析基盤を用意に実現する」企業分析の専門集団です。最新の技術と情報処理技術を駆使し、お客様の業務に合わせたデジタルトランスフォーメーションを提供します。コンサルティングから設計、開発、さらにはサポートサービス、教育サービスまでシステム導入のすべてを提供でき、多種多様な導入実績に基づいた知見で、お客様が抱えるあらゆる課題を解決します。

ホームページ www.zdh.co.jp